



赤谷森林ふれあい推進センター（以下「赤谷センター」）は、群馬県北部のみなかみ町に位置する新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールの国有林（通称：赤谷の森）をフィールドとして活動しています。

この赤谷の森では、「三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画」（以下「赤谷プロジェクト」）に基づき、官民協働での管理・運営を行っており、その運営は地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、公益財団法人日本自然保護協会、関東森林管理局の三者により進められています。赤谷センターは、国有林側の現地担当機関として、三者間のみでなく、みなかみ町とも連携し、地元小学校の森林環境教育の受け入れや、一般者向けの自然散策会の開催などを企画して、実施のサポートを行っています。

今年度についても、新型コロナウイルス感染の状況把握や基本的な感染防止対策の徹底などを図り、季節に合わせた様々な活動を行いましたのでご紹介します。

1. 地元小学校の児童向けに森林環境学習を開催

6月10日、みなかみ町立新治小学校の6年生を対象にした「旧三国街道の歴史と森林や植生の変移を学ぶ森林環境学習」を実施しました。

当日は、現地の日陰に残雪もあるなか、新緑がまぶしい三国街道を群馬県側から新潟県側へ歩いて越境し、標高1000～1200m付近の標高差における植生の変化や、ブナ林、コナラ林、ハイマツへの林相の変移などについて観察しました。また、同行した地域協議会の会長からは、旧三国街道の史跡や歴史のほか、長岡藩士が峠の近くで雪崩に遭い命を落とした場所にて「三国峠の冬の環境の厳しさ」を伝達してもらうなど、地元住民でも知らない貴重な話を聞くことができました。

また、9月2日には同小学校の5年生を対象に「新治の自然の魅力を知る森林環境学習」として、地形、植物、動物の各テーマに班分けを行い、赤谷の森における様々な自然環境について学びました。各班では、「岩肌から流れ出ている湧水は、地中から何百年という時間を経て湧いてきたもの」、「カツラの葉はキャラメルのような甘い香り、アブラチャンの葉はピーナツバターのような香り」などの説明をガイドから聞いたほか、「ドングリを食べに来たクマが登った爪痕や、クマ棚を初めて見てビックリした」など、赤谷の森における自然の力に驚き、感動する児童が多く見られました。

2. 筑波大学山岳科学フィールドの実習受け入れ

山岳環境の課題解決に貢献できる人材の育成を目的に、自然環境に関するカリキュラムとして、筑波大学、山梨大学、信州大学、静岡大学の4大学の学生が、毎年、赤谷の森に来ています。今年は、9月13日に筑波大学の学生18名が来ました。

はじめに、赤谷センターにて作成したスライド動画で赤谷プロジェクトの概要や取組などを事前学習し、当日の見学に役立ててもらいました。

当日は、赤谷センターから、人工林から自然林への誘導を行った植生復元試験地やシカの捕獲試験地を案内し、その地で捕獲されGPS首輪発信器を取り付けたシカの動向を説明するとともに、

シカが体を洗うヌタ場と観察用に取付けたセンサーカメラの確認などを行わせました。

今年からイヌワシの狩場創出試験地の視察を新たに加え、イヌワシの生息環境維持のために試行した小面積伐採地の自然林への誘導についても学ばせました。イヌワシ同様に猛禽類の頂点に立つクマタカが上空を旋回する様子も視察時に見ることができ、学生から歓喜の声が上がりました。

このほか、技術普及課からレーザ計測機器の操作体験指導などを行い、森林内作業の省力化についての説明も行いました。学生からは、目の前に成林していたアカマツ林を見ながら、急峻な地形や林内が小柴などで鬱そうとしている場所での使用方法など、様々な角度・視点からの質問が出されました。

「猛禽類との共生の大切さ、自然林に遷移していく理由が現地を見て、改めて実感できた」、「赤谷プロジェクトとして地域も取り込んで実施する取組の重要性を知ることができた。今後の活動の推移も見ていきたい。」などの感想があり、将来の森林環境分野を担う人材としての期待を感じました。

3. 一般参加者向け各種イベントの開催

赤谷の森の活動をサポートしている「赤谷サポーター」を中心に活動する「赤谷の日」を毎月第1土曜日に設定し、様々な取組を行っています。

今年は、5月に三国山に生育するニッコウキスゲの保護のためのシカ防護柵の柵上げ作業や、クロサンショウウオやモリアオガエルが生息する湿地での卵塊調査と生息環境を維持するための環境整備などを行いました。

夏には、水生昆虫やトンボ類が生息する池の周辺において、水辺に生息する昆虫の観察会を開催しました。昆虫に詳しいサポーターからの説明に、参加者一同、興味津々でした。また、8月の活動では、赤谷の森にこれまで訪れたことがなかったサポーターに、赤谷の森の魅力を感じてもらおう企画を初めて設定しました。

参加者の中には、森林内を歩いた経験の無いサポーターもいました。ブナやコナラの大木を見つつ、川のせせらぎや鳥のさえずりを聞きながらの散策を体験し、早くも次の活動を楽しみにされていました。

そのほか、一般参加者向けのイベントとして、みなかみ町とともに「自然散策会」を企画・開催しています。

春の部では、谷川岳の麓を散策して雪庇と新緑、谷川岳との景観のコラボを楽しみ、夏の部では、涼を求めて溪流沿いの林道を散策し、キノコの観察、カブトムシやクワガタなどを採取する内容です。

森の仕組みや自然環境について学ぶ機会を設けることで、赤谷の森の魅力を発見するなど、子供から大人まで幅広い年齢層の皆様に親しんでいただいていることから、今後も様々な取組を企画してまいります。

群馬県・新潟県境に位置する三国山や旧三国街道、仙ノ倉山、谷川岳では、これから紅葉がピークを迎えます。

是非、赤谷の森にお越しいただき、秋の散策を楽しんでみてください。

大学生参加による自然環境カリキュラムの様子 2022.9月



▲ 小出俣試験地での説明



▲ シカ捕獲試験で使用する箱罠を説明



▲ ヌタ場の見学



▲ ヌタ場近くに設置したセンサーカメラの画像を確認



▲ GPS首輪型発信器を使用したシカ行動把握調査の説明

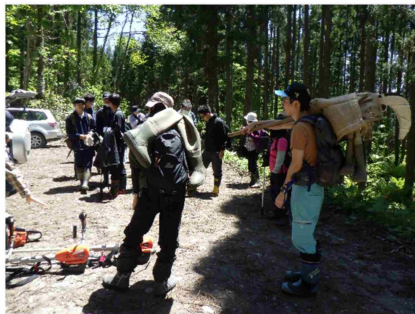


▲ イヌワシ狩場創出試験地でクマタカを発見・観察中

赤谷サポーターによる森林環境保全活動



▲ 2022年7月 (トンボ池での水中昆虫観察)



▲ 2022年6月 (南ヶ谷湿地での排水堰修繕作業)



▲ 2022年5月 (三国峠での防シカ防護柵設置作業)

一般参加者向けの森林環境教育と自然散策



▲ 2022年8月 (赤谷の日の自然散策・魅力発見ツアー)



▲ 2022年5月 (放送大学の面接授業)



▲ 2022年5月 (春の自然散策会 (谷川岳・一ノ倉))